

16日 木曜

エステル

4:1 モルデカイは、なされたすべてのことを知った。すると、モルデカイは着物を引き裂き、荒布をまとい、灰をかぶり、大声でひどくわめき叫びながら町の真中に出て行き、
4:2 王の門の前まで来た。だれも荒布をまとったままでは、王の門にはいることができなかつたからである。

4:3 王の命令とその法令が届いたどの州においても、ユダヤ人のうちに大きな悲しみと、断食と、泣き声と、嘆きとが起こり、多くの者は荒布を着て灰の上にすわつた。

4:4 そのとき、エステルの侍女たちと、その宦官たちがはいって来て、彼女にこのことを告げたので、王妃はひどく悲しみ、モルデカイに着物を送つて、それを着させ、荒布を脱がせようとしたが、彼はそれを受け取らなかつた。

4:5 そこでエステルは、王の宦官のひとりで、王が彼女に仕えさせるために任命していたハタクを呼び寄せ、モルデカイのところへ行つて、これはどういうわけか、また何のためかと聞いて来るよう命じた。

4:6 それで、ハタクは王の門の前の町の広場にいるモルデカイのところへ出て行つた。

4:7 モルデカイは自分の身に起つたことを全部、彼に告げ、ハマンがユダヤ人を滅ぼすために、王の金庫に納めると約束した正確な金額をも告げた。

4:8 モルデカイはまた、ユダヤ人を滅ぼすためにシュシャンで発布された法令の文書の写しをハタクに渡し、それをエステルに見せて、事情を知らせてくれと言い、また、彼女が王のところへ行って、自分の民族のために王に



Bible Reference
聖書の記述

あわれみを求めるように彼女に言いつけてくれと頼んだ。

4:9 ハタクは帰つて来て、モルデカイの伝言をエステルに伝えた。

4:10 するとエステルはハタクに命じて、モルデカイにこう伝えさせた。

4:11 「王の臣民も、王の諸州の民族もみな、男でも女でも、だれでも、召されないで内庭にはいり、王のところに行く者は死刑に処せられるという一つの法令があることを知っています。しかし、王がその者に金の笏を差し伸ばせば、その者は生きます。でも、私はこの三十日間、まだ、王のところへ行くようにと召されていません。」

4:12 彼がエステルのことばをモルデカイに伝えると、

4:13 モルデカイはエステルに返事を送つて言った。「あなたはすべてのユダヤ人から離れて王宮にいるから助かるだろうと考えてはならない。

4:14 もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためにあるかもしれない。」

4:15 エステルはモルデカイに返事を送つて言った。

4:16 「行って、シュシャンにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食をしてください。三日三晩、食べたり飲んだりしないように。私も、私の侍女たちも、同じように断食をしましょう。たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。私は、死ななければならぬのでしたら、死にま

す。」

4:17 そこで、モルデカイは出て行って、エステルが彼に命じたとおりにした。

エステルはモルデカイとのやりとりで、イスラエルの危機を知り、また自分の命をかけて王に嘆願することを決心しました。

「王宮にいるから…助かるだろうと考えてはならない」とは、主のみわざのためにには皆が当事者であり責任者なのだということです。

「もしかすると、この時のためである」というのは、主に与えられた立場は、主のみこころを成すためだということです。命さえも主にお任せしたエステルのように、使命を果たしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？